

各 位

上場会社名	株式会社 昭和真空
代表者	代表取締役社長 小俣 邦正
(コード番号)	6384)
問合せ先責任者	執行役員経営企画室長 田中 彰一
(TEL)	042-764-0385)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月18日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,316	△382	△404	△252	△40.91
今回発表予想(B)	2,158	△602	△601	△731	△118.69
増減額(B-A)	△158	△220	△197	△479	
増減率(%)	△6.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	5,551	289	270	133	21.53

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,255	△365	△387	△266	△43.19
今回発表予想(B)	2,078	△579	△575	△734	△119.18
増減額(B-A)	△177	△214	△188	△468	
増減率(%)	△7.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	5,369	226	217	91	14.77

修正の理由

昨年の秋以降の世界同時不況の影響により急速に悪化した国内景気は最悪期からは脱しつつありますが、企業収益の回復には至っておらず、設備投資環境の回復が依然として遅れております。

このような状況の下、当社グループを取り巻く業界各社の設備投資の抑制が長期化しており、受注面で非常に厳しい状況が続きました。

(1)平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想の変更理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、第2四半期の決算進捗状況を踏まえ、見通しを勘案した結果、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益を下方修正いたします。

売上に関しては、水晶デバイス装置において、受注済装置の納入日延期の要請を受け、第3四半期へ売上がずれ込んだものが数件あり、計画を下回る要因となりました。この結果、売上高は、前回発表予想より158百万円減少し、2,158百万円となる見込みであります。

損益につきましては、売上減による粗利減、更に電子装置において、大口案件の納入日延期があり、生産が下期以降へずれ込み、操業度が低下したため利益率が悪化しました。この結果、営業損失は前回予想比220百万円増の602百万円、経常損失は同197百万円増の601百万円となる見込であります。

また、当社は税効果会計に係る会計基準に従って繰延税金資産を計上しておりますが、当第2四半期までの実績と今後の業績推移を鑑み、繰延税金資産の回収可能性につきまして、慎重に検討いたしました結果、繰延税金資産を取崩し、第2四半期で法人税等調整額に304百万円を計上いたします。その結果、四半期純損失につきましては、前回予想比479百万円増の731百万円となる見込です。

(2)平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想の変更理由

(1)の連結と同様の状況により、第2四半期累計期間の個別業績予想を売上高は前回予想比177百万円減の2,078百万円、営業損失は同214百万円増の579百万円、経常損失は同188百万円増の575百万円、四半期純損失は同468百万円増の734百万円にそれぞれ修正いたします。

なお、通期業績予想につきましては、現在精査中であり、確定次第お知らせいたします。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上